

# 読んでみよう 解いてみよう せん太のワークシート

サッカーJ2・ファジアーノ岡山の試合観戦者に、徒歩や公共交通機関での来場を呼び掛けるプロジェクトが、2021年度版の国土交通白書で紹介されました。記事を読み、質問に答えましょう。

## ファジウォーカープロジェクト

## 国土交通白書で紹介

公共交通や徒歩で来場「地球にやさしい」

サッカーJ2・ファジアーノ岡山が、シテライトスタジアム（岡山市）でホームゲームを行う際、サポートに徒歩や公共交通機関での来場を呼び掛ける「ファジウォーカープロジェクト」が、2021年版の国土交通白書で紹介された。白書の第1部第3章「豊かな未来の実現に向けて」で、コラム「人・地域・地球にやさしい」で2ページ掲載された。試合当日、観戦者の自家用車でスタジアム周辺が渋滞する課題の解決に向け、プロジェクトが16年に立ち上がったことを説明。動画

### Q1 ★★★★★

白書で紹介された「ファジウォーカープロジェクト」が立ち上げられた理由は何でしょうか。第3段落から読み取りましょう。

### Q2 ★★★★★

このプロジェクトを実施したことで、どのような成果がありましたか。第4段落を参考に答えましょう。

### Q3 ★★★★★

自家用車ではなく、徒歩や公共交通機関で移動することで、地域や地球にどんな良い効果があると思いますか。周りの人と話し合ってみましょう。

★の数は問題の難易度を表しています。

こんな取り組みが全国で広がるとうれしいな



Column  
人・地域・地球にやさしい  
サッカー観戦  
～ファジウォーカープロジェクト～

サッカーや野球などのスポーツ観戦に行ったことのある方、スタジアムの周辺にお住まいの方は、試合後の交通渋滞を早急、もしくははさ込まれた経験があるのではないのでしょうか。また、駐車難も見られ、社会問題となっています。これは自家用車での来場が多いことが要因です。ここでは、自家用車から、公共交通機関や徒歩・自転車での来場へ転換することで、交通問題を解決し、それだけでなく、人々の健康増進、地域の活性化、環境保全にも貢献する優れた取組を紹介しました。

ファジウォーカープロジェクトのロゴマークと、会場周辺に設置された案内表示の写し

FAJIAWALKER  
OKAYAMA

FAJIAWALKERプロジェクト

岡山県のプロサッカーチーム、ファジアーノ岡山は、試合当日には多くのリポーターが応援に駆けつけ、大変な賑わいを見せます。一方、スタジアム周辺では日常交通に観戦者の自家用車交通が加わり、大きな渋滞を引き起こし、地域の課題とされています。リーグという地域が盛り上がる大切な資源にもかかわらず、他方で地域にネガティブな影響を与えているという印象を持つ方もいて、非難にもつないない状況でした。

そこで、2016年に産官学のプロジェクトチーム「ファジウォーカープロジェクト」が立ち上げられました。このプロジェクトでは、渋滞解消にとどまらず、地域の更なる発展を目標として、活動が行われています。

このプロジェクトでは、「車で来るのはやめよう」とは決して言っていない。リポーターを巻き込み、多くがクラブの応援になる。そうした「ファジウォーカー」というブランドイメージとプロモーションがこのプロジェクトの特徴です。

具体的なプロモーション活動としては、プロモーション動画の作成や、駅での広告、スタジアム内の電光掲示板でのPR等に加え、ワンショットTTPという取組を行っています。これは、自家用車で来場された方にアンケートをかけ、自動車を利便しない来場方法を考えようという取組です。転換のきっかけを調査した結果、この取組がもっとも成果があったことがわかりました。

国土交通白書に掲載されたファジウォーカープロジェクトのコラム（国土交通省提供）

制作のほか、車で来た観戦者に声をかけ、移動手段の転換を考えてもらう取り組みが「最も成果があった」として削減につながった。

19年の調査では11%が手段を変え、年間21試合で「4175台の削減につながった」。

公共交通機関の利用者はJR岡山駅周辺の店舗に「立ち寄る割合が1.2〜1.9倍多くなる」ことも報告。

国土交通白書に掲載されたファジウォーカープロジェクトのコラム（国土交通省提供）

クラブや岡山大、岡山道事務所でつくる実行委員会の氏原岳人実行委員長（同大准教授）は「取り組みが評価されてうれしい。今後もスタジアム周辺のさらなる活性化を図りたい」と話している。（梶山瑞弓）

「こうした取り組みが全国で進むことが期待される」と結んでいる。